

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東北大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画		
主たる研究科・専攻名	文学研究科歴史科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 阿子島 香		

### [教育プログラムの概要]

我が国の「成熟社会化」への進行のなかで、人文知の確かな継承と創造のための機構整備は社会的な要請であり、歴史学も改革を必要としている。変転めまぐるしい現代にあって、過去の文化の叡智と、人々の生きざまに学ぶ**総合的な歴史学**への社会的要請は大きく、**生涯学習ニーズ**の広範な拡大がみられる。博物館、美術館、文書館等において、収蔵品研究、保管活用、企画展示などには、常により高い水準が求められるようになった。本申請プログラムでは、これらの要請にこたえる**高度な資質の学芸員**を、国際性豊かなカリキュラムのなかで体系的に育成することをねらいとする。専門分野に深い学識を有し、かつ幅広い対象資料に通じていて、世界各国の学芸員と対等な活動ができる**世界水準の優秀な人材の着実な養成**は、喫緊の社会的急務である。それは本研究科の人材養成目的にも合致する。

従来、学芸員教育は、細分化した専門分野において行われてきた。優れた学芸員はこれまでも多く育ててきたが、いわば個々の教員や研究室が有する**個別の技量に依存**してきたという点は否めない。学芸員の**国家資格**も、5科目12単位を要件とする学部卒業の資格であり、現今の社会的要請とはギャップが大きい。現実には大学院教育が必須であった。本計画は、いわば個人わざ頼みの現状を改革し、組織的な養成課程として体系化することをめざす。日本のリーダー的学芸員の養成に重点をおくことで、また歴史学全体における大学院教育の改革への牽引車としての役割を果たすことも目標としている。

本歴史科学専攻では、文字史料に加えて考古資料、美術資料など多様な形を取る原資料を「**歴史資源**」として捉え、個別分野横断的な研究方法、新たな資料学・史料学の構築、その社会的公開をめざして、**平成14年度**から共同の教育研究活動を重ねてきた。今回の申請では、**古文書、遺物・遺跡、絵画・彫刻**など様々な形態の資料を、統合的に蓄積する「**歴史資源アーカイブ**」を媒介にして、院生たちを原資料に、現場で、実地に取り組みさせる教育プログラムを発展させる。すなわち、各分野で個別に行われてきた学芸員教育を、実物・原典資料を通じてリンクさせ、専門性と広域性を同時に醸成していく。

**二つの学芸員養成コース**を新たに設置する。**考古学、東洋・日本美術史、美学・西洋美術史**からの、モノ資料を主な対象とする教育分野を「**キュレーター養成コース**」、**日本史、東洋史、ヨーロッパ史**からの、文献史料、木簡、金石文などを対象とする教育分野を「**アーキビスト養成コース**」として、カリキュラムを体系化する。それぞれの分野での資料の特性を踏まえた高水準の実物教育を行う。前者は**美術館、文化財研究所、博物館、埋蔵文化財センター**などで、後者は**博物館、史料館、公文書館、図書館**などで国際レベルの活躍ができる人材を養成する。

博士前期課程においては、まず各自の専門分野の原資料に堅実に取り組み、歴史資源のもつ本質について良く理解させる。基幹科目として特論、展開科目として研究演習、研究実習等で、正統的な**原典主義**を徹底して学ばせる。授業では**実物教育・実地教育**の機会を豊富に提供し、各自の志望進路を加味した**学際的な選択**を用意し、修士論文へ展開させる。隣接分野の科目履修により、原資料の実態に存在する歴史資源の多様性の認識を深める。デジタルアーカイブは多様な歴史資源研究の鳥瞰図、いわば「**羅針盤**」の役割も果たすわけである。

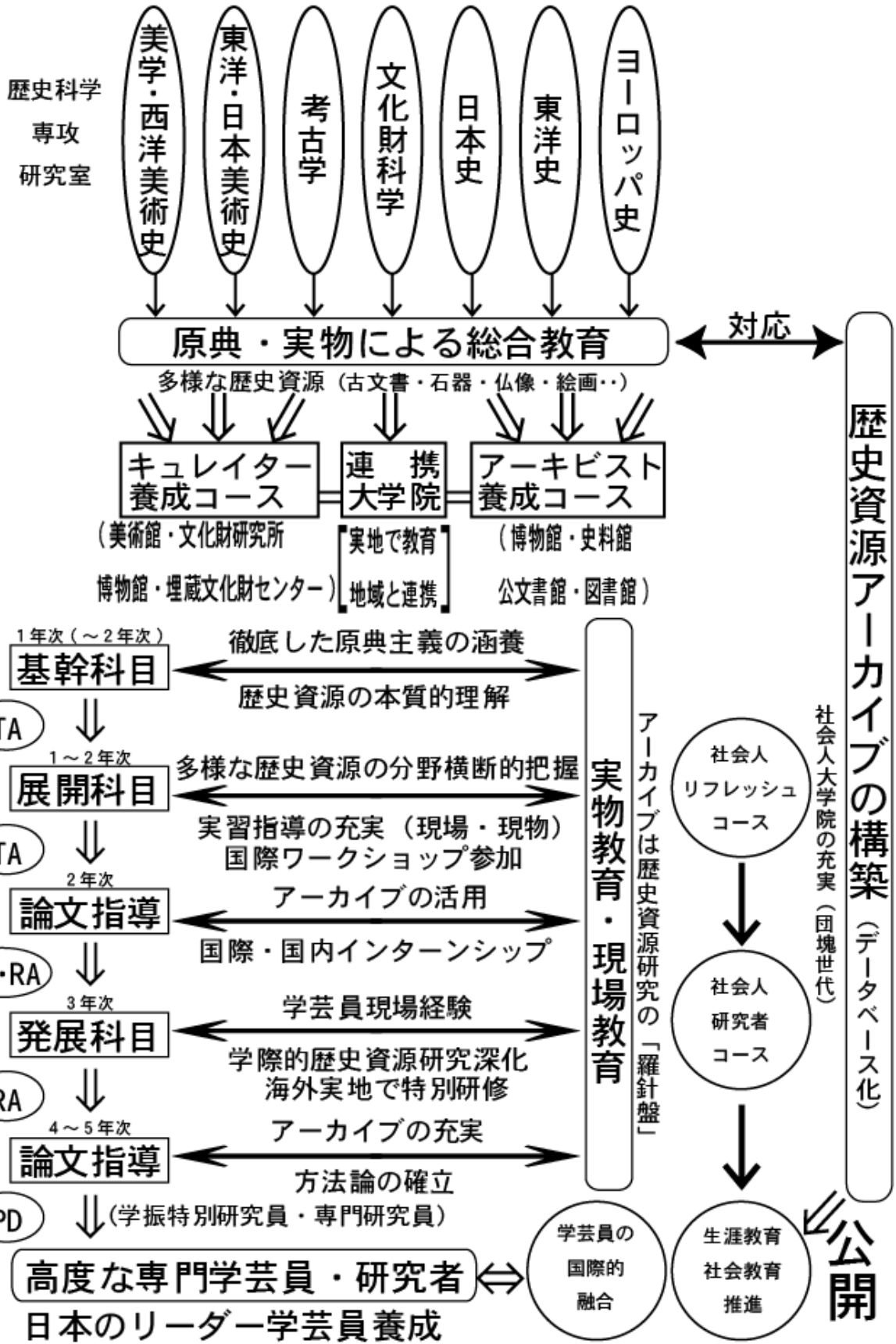
学芸員としての国際的素養を醸成するため、博士前期・後期課程を通して、教員主導の**海外実地教育**を実施し、交流実績のある機関と院生レベルの相互派遣(**国際インターンシップ**等)を行う。

博士後期課程では、学術雑誌への論文掲載指導を通して、原資料から論文に至るプロセスについて正確に把握させる。学内公募により、院生自身に歴史資源研究の**プロジェクトを企画・立案**させ、教員の指導の下で実施させることで、**健全な競争的環境**を作り、研究の計画と実施に関する様々な**マネジメント能力**を養う。院生の研究成果のフォーラムを実施し、隣接分野の実際をも学ぶ機会とする。また歴史資源を扱う調査・研究に**共通する倫理的側面**については、系統的に指導する。これらプロジェクトにおいても、海外所在の歴史資源研究、比較研究、**他国の歴史学との交流**を、実物・実地の原則をもって経験する機会をもたせる。

TA. RA. PD. にはそれぞれの立場での教育経験を積ませて、歴史資源研究法の「**技(わざ)の継承サイクル**」をカリキュラム化する。またアーカイブの維持管理を行うシステムを、各分野の歴史資源の特徴に従って確立し、その運営プロセスを通じての教育を行う。**東北大学に収蔵**されている豊富な資料、また調査資料、画像記録などは、歴史資源アーカイブの一部としてデータベース化し、社会的共有を進める。高度な分析訓練のための設備、デジタルデータの蓄積と活用に必要な機器を充実させる。**東北大学総合学術博物館、東北大学史料館、平成8年から連携大学院文化財科学**を実施している**多賀城跡調査研究所・東北歴史博物館**とは、さらに実質的協力を深めて、現場に学び、地域と連携する機会を拡大する。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

# 歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画



<採択理由>

教育プログラムについては、高度な専門学芸員・研究者の養成を目指し、モノと文献という研究対象に応じて「キュレーター養成コース」と「アーキビスト養成コース」を設置して正統的な原典主義による実物教育・実地教育を行うなど、多くの資料を所蔵する東北大学の長をを活かした取組となっており、実現性が期待される。また、大学院生を海外での歴史資源研究のプロジェクトに参加させるなど、世界水準の学芸員養成を目指す意欲的な取組が計画されている点も評価できる。更に、大学全体における研究資源のアーカイブ化構想の一環として大学院の教育事業が位置付けられており、今後の展開が期待できる。